

第2回名古屋大学日本語教育研究集会

日時 2004年8月9(月)

場所 国際言語文化研究科棟2階 LL22 番教室(控え室: LL24 番教室)

プログラム

受付開始: 9:30~

- 研究発表: 10:00~10:30 杉村 泰(名古屋大学大学院国際言語文化研究科)
収束する「に」、進化する「へ」
- 10:30~11:00 李 善姬(名大日言文院生 D1)
韓国人日本語学習者の不満表明に関する一考察
- 不満表明ストラテジーの場面別使用傾向 -
- 11:00~11:30 鈴木智美(東京外国語大学留学生日本語教育センター)
接辞「~めく」の意味
- 11:30~12:00 家田章子(名古屋女子大学非常勤講師)
「~という」の文法化
- 逆接表現との共起 -

(以上司会 名嶋義直)

(昼休み)

- 13:00~13:30 林 佩芬(名大多元文化専攻院生 D1)
日本語の「+助数詞」の意味 - 中国語・英語との対照を通して -
- 13:30~14:00 名嶋義直(東北大学大学院文学研究科)
学習者はノダをどのように位置付けているか
- 14:00~14:30 許 永蘭(名大日言文院生 M2)
複合動詞の後項「~きる」と「~つくす」の類義分析
- 14:30~15:00 加藤理恵(鹿児島純心女子大学)
日本語教育の諸問題
- 類義語分析 指向動詞「めざす」と「ねらう」 -

(以上司会 鈴木智美)

(休憩)

- 15:15~15:45 木下りか(大手前大学人文科学部)
形容詞の装定用法をめぐる一考察
- 15:45~16:15 古川智樹(名大日言文院生 M2)
「そうか/そっかー」のあいづちの機能と日中接触場面における中
国人日本語学習者のあいづちの誤用分析
- 16:15~16:45 三谷閑子(名大日言文院生 D2)
作文の評価手順が評価に及ぼす影響について
- analytic scoringの採点に関して -

(以上司会 許 夏玲)

懇親会 17:00~19:00(社会人:2500円、学生:1500円)

[会場] 国際言語文化研究科棟2階演習室